

日本ジェネリック医薬品・バイオシミラー学会
第12回学術大会にあたって

【ジェネリック医薬品80%達成バイオシミラー製剤の促進】

このたび、日本ジェネリック医薬品・バイオシミラー学会第12回学術大会を、2018年8月25日（土）から26日（日）までの2日間、京都薬科大学にて開催させていただくことになりました。開催にあたり、僭越ながらご挨拶を申し上げます。

現在、本邦は世界が経験したことの無いスピードで少子高齢化が進み、社会保障制度の持続が危機にあります。その中において薬剤費はバイオ医薬品等の高額薬剤が相次ぎ開発され、今後社会保障費の増加は続くと思われまます。

一方、ジェネリック医薬品はこの10年普及促進するための診療報酬上の政策もあり、普及率は30%から60%へと倍増しました。そして、政府は2020年9月までに80%以上の目標を発表しました。これはまさに欧米に並ぶ数値であります。2017年9月の健保連国民意識調査では、国民のジェネリック医薬品に対する認知度は99.3%にのぼり、そのうち79.5%が使用経験ありと答えています。この結果から、医療関係者のさらなる努力により80%目標は可能であると考えています。

今後は、バイオシミラー製剤に対する理解と使用促進が国民医療費の増大を抑える切り札になるものと思われまます。低分子のジェネリック医薬品で培った経験を活かし、正しくバイオシミラー製剤を理解し評価して使用することが求められています。

このような考えから、日本ジェネリック医薬品・バイオシミラー学会第12回学術大会のテーマを「ジェネリック医薬品80%達成とバイオシミラー製剤の促進」といたしました。組織委員一同、今大会がご参加の皆様にとって実りある2日間になることを願っております。

平成30年7月吉日

日本ジェネリック医薬品・バイオシミラー学会第12回学術大会

大会長 楠本 正明

(京都薬科大学臨床薬学教育研究センター教授)